



5. 実現に向けて

本計画で掲げる都市計画・まちづくりの目標に向け、第4章で示す取り組みを実施することで、目標年次の20年後に「自然と共に生き、人と共に生きるまち」の実現を目指します。これらの取り組みの中には、まちなかにおける生きものへの配慮するための整備（方向性1）や、中心市街地を『綾の顔』とするための取り組み（方向性2）、長期未着手都市計画道路の見直し（方向性3）など、町民・事業者との協働が不可欠な取り組みが多くあります。そのため、取り組みにあたっての情報発信や意見収集、町民・事業者・行政がそれぞれの立場で連携しながら取り組む「綾のまちづくり」の継続・発展に留意します。

方向性1：まちなかにおける環境・景観施策の総合的推進

[主要な事業（抜粋）]

- ・ **農業**：継続的な自然生態系農業の推進 /
農業生産基盤の計画的かつ生きものに配慮した整備
- ・ **地域環境**：生きもの・環境に配慮した生活環境・経済基盤の維持・推進
(河川・水路、下水道、公園、企業活動など)
- ・ **役場の体制**：「いのち豊かな綾」を保全・実現する役場の体制づくり
(エコパーク推進室を中心とした横断的な会議の開催等)
- ・ **エコパーク**：綾ユネスコ エコパークの知の拠点としてエコパークセンターの育成

□まちなかにおける生きものへの配慮イメージ（再掲）





方向性2：「コンパクト+ネットワーク」の形成（綾の顔づくりと地域づくり）

[主要な事業（抜粋）]

- ・ **道路・緑**：広域幹線道路・緊急輸送道路・集落間のネットワーク道路の維持管理・整備等/
本町玄関口での緑陰（タウンゲート）の配置
- ・ **河川環境**：親水活動を楽しめる河川環境整備等
- ・ **公共交通**：公共交通の利用促進・利便性の確保 /
福祉バスの利便性向上とコミュニティバスの検討
- ・ **中心市街地（商業等）**：ユネスコ エコパークにふさわしい都市（まちなか）空間の創出
（綾の顔づくり（景観整備）） / 中心市街地の回遊性の確保 /
美しい綾づくりプロジェクトの実施
新店舗・起業家の受け入れ・育成支援 / 基本的な生活支援機能の充実
- ・ **交流と連携**：自治公民館活動の更なる活性化 /
多種多様なコミュニティ活動の支援・各団体相互の交流促進 /
- ・ **広域連携**：自然生態系農業や照葉樹林を活用した産業観光の活性化 /
自転車の利活用による交流人口の増加・近隣市町とのネットワーク強化
（自転車ネットワーク計画の策定と自転車レーンを活用した誘客のための取り組み等） /
宮崎市・国富町との連携（圏域内の施設案内の相互表示・大規模災害時における広域的支援体制および避難場所の整備等） /
小林市との連携（宮崎須木線を活かした周遊観光等）

□綾の顔づくりイメージ





方向性3：親子3世代・次の世代が楽しく暮らせるまちづくり

[主要な事業（抜粋）]

- ・ **交通施設**：生活者（児童・高齢者など）目線での町道再整備 /
長期未着手都市計画道路の見直し /
重要な道路構造物の定期点検・効率的な維持管理 /
タクシーの利用料金支援
- ・ **公園緑地**：施設利用者・防災に配慮した公園整備 /
錦原運動公園の機能充実等 /
自治公民館と協力した公園や緑地の維持管理
- ・ **上下水道**：長期的な視点をもった計画的な維持管理 / 第2水源の開発 /
公共下水道の計画的な整備・加入促進と合併処理浄化槽の普及促進
- ・ **暮らし**：徒歩や自転車で散策する都市基盤・空間づくり /
高齢者や障がい者の在宅生活支援と中心市街地を結ぶ取り組み /
計画的な公営住宅の改修・維持管理 /
町民・事業者・行政協働の景観形成（景観計画の周知・運用）
- ・ **防災**：急傾斜危険箇所等の把握と周知 /
荒れている山林箇所の整備推進 /
排水ポンプ場の整備や河道の整備 /
避難地・避難路の整備と木造密集市街地の解消 /
公的施設等の耐震化と緊急時に備えたバックアップ施設・システムの整備 /
自主防災組織の強化推進と避難拠点施設の整備の充実・防災備蓄施設の整備
- ・ **雇用（工業等）**：無公害型企業の誘致 /
ICTの活用による町民の就労機会を増やす取り組み /
空き店舗活用・新たな工房開業に対する創業支援等 /
既存ストックを活用したコワーキングスペース整備



[計画に掲げた取り組み等の評価・見直しについて]

今後これらの取り組みを進める中で、取り巻く環境や状況が変化し、各組織の連携方法や取り組みの見直しをする必要性が出てくることが考えられます。そのため適宜、PDCAサイクル^{*}を踏まえた取り組み等の評価・見直しを進めていきます。

^{*}PDCAサイクルとは、「計画」→「実行」→「評価」→「見直し」の4段階を繰り返し進めていくことで、内容の改善などを図っていくマネジメント手法です。

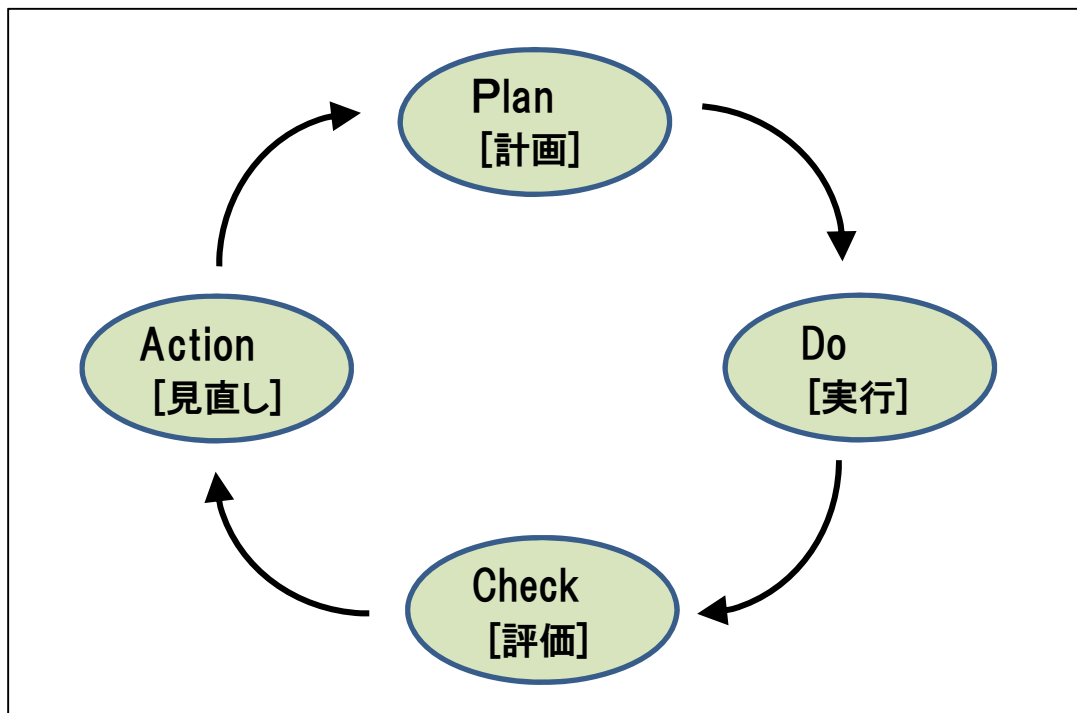


図 PDCAサイクル



【綾のまちづくりの重要3要素について】

最後に、本計画で掲げる取り組みの実施にあたり、特に留意すべき「綾町のまちづくりの重要3要素」を示します。

フィールド：これまで本町は豊かな照葉樹林を活かしたまちづくりや自然生態系農業等、大地を活かしたまちづくりを進めてきました。

この考え方は本計画の基本目標に掲げた「自然と共に生きる」にも集約されており、今後もこの豊かな大地をまちづくりに活かしていきます。

時間軸：本町はこれまでの取り組みによって、ユネスコ エコパークの登録やCIB国際美しいまちづくりコンクールで5つ星（最高ランク）を受賞する等、国際的に評価されるまちになりました。

これまでの取り組み・ストックを本町の財産として捉え、この強みを積極的にまちづくりに活かします。

人間軸：本町のまちづくりは「人づくり」が基本であり、本計画の基本目標でも「人と共に生きる」を掲げています。未来に向け綾町らしいまちづくりを推進するには、この度「第70回（2017年度）優良公民館表彰」で綾町公民館が優秀5館の一つに選ばれたように、自治公民館活動をはじめとする町民の元気な活動が不可欠です。今後展開していく、まちなかでの取り組みにおいても、積極的に町民と連携して、綾町らしいまちづくり・顔づくりを進めていきます。

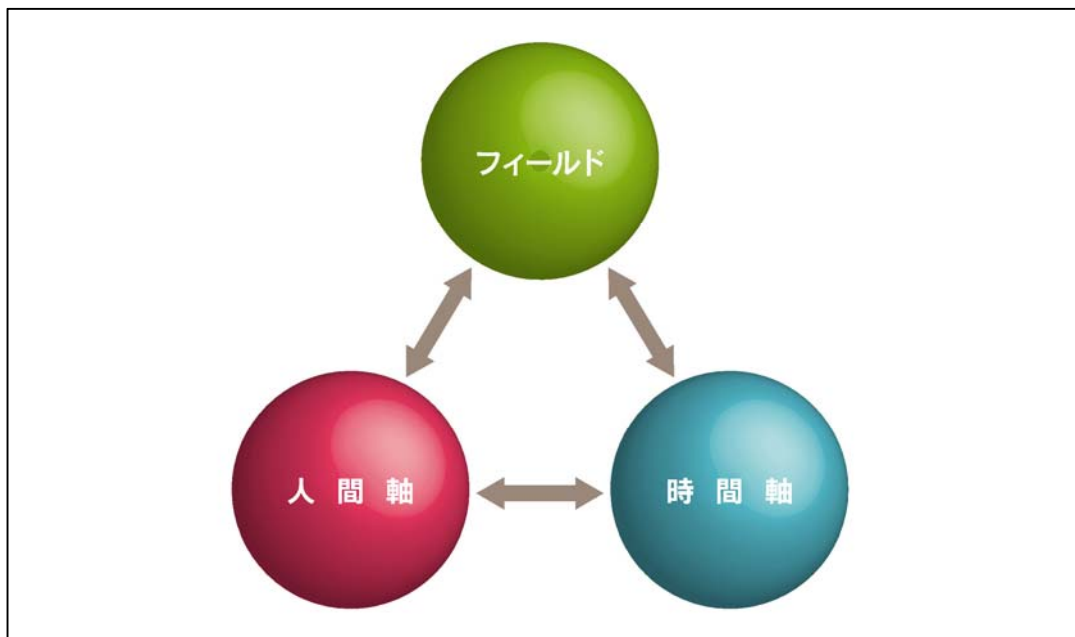


図 綾のまちづくりの重要3要素